

学 校 別 力 目 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	A 保護者アンケートで「わかりやすい授業を実施するために、様々な工夫をしていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「授業をわかりやすくするために、様々な工夫をしている」と回答した生徒の割合	4: A 80%以上 B 90%以上	3	・授業公開における保護者アンケートにおいて90%が「わかりやすい授業をしていた」という質問に肯定的な回答がされている。 ・支援委員会及び、SR委員会を週1回定期的に行い、不登校・いじめのチーム支援をした。また、その背景である特別支援の指導をすすめることができた。個々の特性に応じた支援がすすみ、SRIに入級する生徒が増えた。 ・「授業をわかりやすくするために、様々な工夫をしている」というアンケートに肯定的に回答した生徒は88.3%、保護者は70.6%であった。 ・いじめへの対応も向上しており、安心安全な教育環境がつけられている。	A	4	・クラスによっては課題が感じられるクラスがある。 ・毎晩遅くまで明かりがついている。先生方ご苦労様。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3: A 60%以上 B 70%以上			B	5	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	2		2: A 40%以上 B 50%以上			C		
						1: A 40%未満 B 50%未満			D		
た 自 個 め 分 別 の 目 学 し 標 び く 5 を い 支 き 援 い き と す 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	A 保護者アンケートで「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」と回答した保護者の割合 B 不登校生徒の割合	4: A 80%以上 B 1%低下	3	・組織的に生活指導に取り組むことができた。ほぼすべての生徒が予鈴で登校し、自然に規律を守る状態となっている。 ・道徳の授業はICTを用いた対話的な授業が日常的に行われるようになった。 ・学校生活調査、QUの結果を用いて、生徒への対応を着実に行った。不安傾向が強い生徒が多く、不登校やメンタル面で課題の行動の要因となっている。 ・とまり木、(別室指導)を設けていることで、教員の早期対応の意識があがっている。また、具体的な支援を行うことができるようになっている。 ・学校での問題行動のケース会議を行う事案が今年度はなかった。個別に、児童委員に見守りを願う事例が複数あった。 ・メンタル面での課題を持つ生徒への対応のための個別ケース会議を多く行った。学年・SC・SR・部活動などの連携により、課題が改善した事例が生じた。 ・「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」の項目への肯定的な回答をした保護者の割合は、57.3%と0.2%減少したが、「わからない・無回答」を除いた回答の中での肯定的な回答の割合は非常に高くなった。今年度も、学校での取組が保護者から見える状態となり保護者からは評価されている。しかし、不登校生徒は、未だ10%を超える状況であり、予防的な指導がさらに必要とされる。 ・生徒アンケートでの「いじめや不登校の課題に、きちんと対応していた」に肯定的に回答した生徒の割合は、79.3%であり、昨年度より1.3%上昇した。学校の取組が見えるようになったと思われる。	A	4	・とまり木は効果的であると思う。 ・いじめは大きな問題だが、羽田中はしっかりと対応できている。 ・不登校の生徒が多いのは気になる。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3: A 60%以上 B 0.5%以上 低下			B	5	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2: A 40%以上 B 昨年度と同程度			C		
						1: 40%未満 B 0.5%以上 上昇			D		
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 境 な を 学 び 習 く 空 間 と す 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	A 保護者アンケートで「開かれた学校づくりをしていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「ボランティアで地域の行事などに意欲的に参加している」と回答した保護者の割合	4: A 90%以上 B 70%以上	3	・ホームページは、ICTサポーターや経営支援部を活用し、学期に2～3回更新することができた。 ・地域連絡協議会は、学校をみていただく取組を増やし、情報を提供している。 ・学校支援地域本部とは密接な連携がとれている。学習指導、マナー教室、特別支援級への書写指導など多くの事業を継続実施できた。また、今年度も、2年生の薬物乱用防止教室を、学校地域支援本部を仲介して法務省(鑑別所)の心理技官にしていた。 ・体育祭、文化祭、学校公開などできる限り、保護者が参観できるようにした。 ・ボランティアが復活したが、参加する生徒数が少なかった。意義・必要性などを次年度以降、再度指導していく必要がある。	A	5	・学校支援本部は、学校とさらに密に連携をとり、応援していきたい。 ・ボランティアの活動方針等を今度検討する余地がある。 ・学校メールで特別授業など案内してもらっているの、行けるときは行っている。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3: A 70%以上 B 50%以上			B	4	
						2: A 50%以上 B 20%			C		
						1: A 50%未満 B 30%未満			D		
学 地 学 校 域 校 別 を コ ・ 目 ツ ミ 家 標 ク ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 す イ 域 の 核 連 と 携 し て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	A 保護者アンケートで「学校は、地域の力(保護者以外)を子供たちの教育活動に活かしていた」と回答した保護者の割合 B 生徒アンケートで「羽田中は、他の学校にはない特徴をもった自慢できる学校だと思う」と回答した生徒の割合	4: A 70%以上 B 70%以上	3	保護者アンケートで「学校は、地域の力(保護者以外)を子供たちの教育活動に活かしていた」と回答した保護者の割合は、57.4%であった。地域として応援していただける方が多いにもかかわらず、まだ活かされていないので、今後も継続してお願いしていく。 生徒アンケートで「羽田中は、他の学校にはない特徴をもった自慢できる学校だと思う」と回答した生徒の割合は、76%ある。今後は、羽田空港などの周辺施設とも連携しながら、地域性を活かした活動を取り入れていく。	A	5	・生徒がもっと地域の行事に参加できるようにしたい。 ・羽田空港の利用等は、声をかけてくれれば協力する。 ・生徒・家庭が困ったときは、いつでも協力する。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3: A 50%以上 B 50%以上			B	4	
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2		2: A 30%以上 B 30%以上			C		
						1: A 30%未満 B 30%未満			D		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す